

川上宏奨学金受給研究成果報告書

研究題目: コミュニティ FM による災害時の放送の研究

1. 研究目的

本研究は、コミュニティ FM が災害発生時、地元住民にどのような放送を行い、関わっているかを明らかにすることが目的である。コミュニティ FM が、災害が発生した際、どのような放送をしているかという調査疑問を挙げ、コミュニティ FM の職員への聞き取り調査、ラジオの放送内容の分析を行った。

2. 研究方法

本研究でおこなった調査は、聞き取り調査、放送内容の分析である。はじめに、東京都調布市にある調布 FM の職員の袴田さんに聞き取り調査を行った。この調査では、ラジオ局が行っている防災への取り組みを明らかにするためである。次に、石川県七尾市にあるラジオななおのインターネット放送を聴き、内容をおこし、放送の内容を分析した。この分析では、能登半島地震の被害にあったラジオななおで実際にどのような放送を行っているのか明らかにするためである。

3. 研究結果・考察

はじめにコミュニティ FM の先行研究についてまとめた。コミュニティ FM は、市区町村規模の FM ラジオで地域の活性化や地域の防災を担う地域密着型のメディアとして表現されることが多い。大きな特徴として放送内容の自由度の高さが挙げられる。また、コミュニティ FM は、災害時に地域の情報発信の役割を果たす。一方で、コミュニティ FM の経営形態は局によって大きく異なり、小さな放送局ではすべての情報をカバーすることが難しいことがわかった。

次に調布 FM で行った聞き取り調査の内容をまとめた。聞き取り調査の結果、調布 FM

は日常的に災害が発生した際の対応を心得ていた。東日本大震災や台風 21 号の被害に遭った際、災害放送を行った。災害放送を行うには、災害対応にあたる機関との情報交換を日常から行い、信頼関係を築くことが重要である。また、調布 FM を調布市民に日常的に聴いてもらうことで非常時でも調布市民が調布 FM を聞いてみようと思う。災害はいつどこで発生するかわからないものであるからこそ、調布 FM は日ごろから備え、発信される情報に対してリスナーが信頼できるような放送を行っていた。

次に、ラジオななおの放送内容の分析を行った。ラジオななおの 2024 年の 1 月、3 月、5 月のインターネット放送を録音し、内容の分析を行った。1 月の放送は、緊急性のある情報をラジオかなざわの放送中にラジオななおから放送した。ラジオななおからの情報は、緊急性のある優先度の高いものであった。3 月の放送は、リスナーからの便りを多用し、地域イベントの参加を呼びかけた。5 月の放送は、七尾市の復興について触れられた。

最後にコミュニティ FM は、災害時地域住民に必要な情報を届けながら、多くのリスナーの声を聴き、それに返答し続けた。災害で人との繋がりや地元の帰属意識に対して不安や喪失感が生まれる。このような不安に対してコミュニティ FM は、地域コミュニティの再創造、復興の一端を担い、人々の気持ちに寄り添い続けた。コミュニティ FM は、地域住民に必要なメディアであり、地元住民の心の拠り所になりえる。

4. 奨学金の主な使用用途

受給した奨学金は、主に文献費や資料のコピー代、聞き取り調査に協力していただいた方々への謝礼品代、交通費として用いた。

5. 謝辞

本研究をおこなうにあたり奨学金を給付してくださった故川上宏先生とご家族、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。頂いた奨学金で調査を滞りなく行うことができ、より

一層研究に励むことができました。ご支援いただき、本当にありがとうございました。